

甲府市歴史公園築造工事 市民現場見学会

■山手渡櫓門の屋根工事の概要

山手渡櫓門の屋根は、本瓦葺きという葺き方で行なわれております。現在の一般住宅などに見られる瓦は、江戸時代に発明された丸瓦と棧瓦を合体させた棧瓦というものですが、本瓦は平瓦と丸瓦で構成されます。

屋根の構造の木組みを“小屋組”と呼びますが、その上に野地板を張り、さらにその上に瓦葺き屋根の下地(土居葺きという)をします。土居葺きの主な目的は防水で、現在はアスファルト製の防水ルーフィング材などを用いていますが、当時は柿板(こけらいた:厚さ3mm程の板)や杉皮などを用いていました。本工事では、木曾産のサワラ材の柿板で葺いています。4枚以上重なるように施工していきます。

山手渡櫓門

(やまのてわたりやぐらもん)



棧瓦



本瓦



土居葺き(サワラ柿板)状況



瓦棧取り付け状況



試作品(平瓦:唐草文様・丸瓦:三巴と連珠の文様)

土居葺きの上に平瓦を載せるための瓦棧(かわらざん)を取り付け、丸瓦を置いて留めるための銅製の番線をつけます。



軒瓦取り付け状況



平瓦葺き状況



丸瓦葺き状況

そして、瓦を葺きます。軒の部分からはじめ、平瓦、丸瓦と続きます。この後、降棟、棟、そして最後に鯨瓦が載って、屋根工事が終わるのです。

平瓦、丸瓦はすべて手作業で製作します。三州(愛知県東部)の良質の粘土で製作しました。

鯨瓦は若草瓦会館で身延山大学教授・柳本先生の手で丁寧にならわれています。

昔はのぼり窯で焼くので均質なものはできませんでしたが、現在は高温の窯で焼き上げます。



鯨瓦製作状況



鯨瓦窯入れ状況